一、小作事奉行手前、諸事無滯樣に可申渡事。
一、御城中并外構破損奉行相談を以諸事可申付事。
一、御國中御作事之儀は、何方に而茂萬端御作事奉行より可申付候。手先之奉行人入候者、對馬・因幡・玄蕃・民部に斷、無滯樣に奉行を乞可遣事。
一、何色によらず、御作事方御用之儀、諸事無滯樣に可有裁許事。

右被仰出候所相違有間鋪者也。

萬治二年六月朔日　御印

今枝民部
津田玄蕃
奥村因幡
前田對馬

金澤御作事奉行

加賀藩御定書卷四

御普請會所御定書

一　被下屋敷之儀御定

被下屋敷御定

一、被下屋敷歩數、御定之通無相違樣に、念を入可打渡事。
一、三千石以上之面々には、下屋敷被下候。居屋敷手寄能所に而可相渡。但御昵近之屋敷に不交、遠所に而可渡事。
一、居屋敷・下屋敷共、與力知無構、自分知之當り被下、與力屋敷は別に可被下候事。
一、御加增被下候面々、下屋敷不足分、對馬・因幡・玄蕃・民部指圖次第可相渡事。
一、高知之跡目、小身に成候はゞ、下屋敷知行當之外取上可申事。
一、地子家數多所に而、拜領屋敷望申もの、相對を以引料とらせ候はゞ、何方に而茂可相渡事。
一、親子兄弟一所望屋鋪被下者、欠人候はゞ其當り取上候歟、地子に可申付事。
一、親跡目減、或は兄弟にわかり(分れ)候もの居屋敷、知行當分より廣候共其儘可被下候。若公儀より御定候歟、自分に替屋敷仕候はゞ、其節は知行當之外餘分可取上事。
一、死去人跡目不被仰付候者、居屋敷可取上事。
一、上り屋敷、家其外植木等あらさせ申間敷候。替屋敷被下者は、勝手次第とらせ可申候事。
一、居屋敷之内、地子に而貸置候はゞ、其屋敷不殘取上べし。下屋敷之内、地子にて貸置候はゞ、貸申分可取上事。
一、地子銀如御定出來退轉毎年遂吟味、帳面に記、淺野屋次郎兵衞・菊屋八左衞門へ可相渡事。

朱書。淺野屋・菊屋御用御取上以後は、帳面記、會所に相渡申候。

一、金澤中道橋切々(偖々)見廻り、往還障りなき樣に修理可申付事。

朱書。寛文元年より町會所支配に罷成申候。

一、侍・町屋其外屋敷主より道悪所作らせ可申候。度々申渡